

平成29年度 事業計画書

公益財団法人 日本国際医学協会

平成28年12月8日

1、国際治療談話会例会開催

当協会の起源である医学談話会は、初代理事長故石橋長英により、医師卒後教育の推進を目的に大正14年に発足した。昭和30年以降は国際治療談話会と改称され、各専門家による最新医学の知見が数多く講演され現在に至る。また、昭和43年から始まった医歯薬以外の名士による「感想」は当協会独自の講演であり、医療に携わる人は病める人と向き合う上で、医歯薬以外の幅広い見識が求められるという創立者の理念に基づいている。国際治療談話会は、医師のみならず医療関係者に対する生涯にわたる総合医学教育の場として定着しており、来年度も例会を1, 3, 5, 7, 9月の年5回開催する。

2、第57回国際治療談話会総会開催

本総会は昭和36年より毎年1回11月に開催し、例会同様に総合医学教育を実践するだけでなく、医学を通じた国際交流に寄与するため、随時海外の医学者を招待し最新知見を取り上げる。総会においても医歯薬以外の名士による「感想」講演があり、講演会終了後の懇親会は国際医学交流並びに会員相互の親睦、情報交換の場となる。また、平成14年度からは創立者石橋長英の名を冠し、石橋記念講演を開催している。これは、日本で活躍中の海外からの若手医学研究者を奨励する医学講演であり、国際医学交流の普及に貢献するため来年度も開催する。

3、国際交流並びに医学情報交換

医師生涯教育に並んで当協会の主要な事業に国際医学交流がある。国際医学交流は伝統的に独国との間で盛んに行われ、過去に多くの医師や研究者が当財団を通じて交流を果たしている。また、これらの交流は市民まで広がり、栃木県の下野市（旧石橋町）とディーツヘルツタール（旧シュタインブリュッケン）、群馬県の草津町とビーティヒハイムビッシンゲンのように市姉妹都市締結にまで至った歴史がある。他にもレムゴ、カールスルーエ、フライブルクなど多くの市町村やドイツの主要な大学・医療機関と医学交流の歴史があり、国際親善の推進を図ってきた。来年度も適時これらの市町村を通じて医学・文化交流による国際親善の推進をはかる。また、心臓の刺激伝導系を発見した日独両国の医学研究者の業績を讃えた田原・アショフシンポジウムに協力し、隔年で日独交互に開催されるシンポジウムに合わせて、日独医学交流を推進する講演会や訪独旅行などを定期的に開催する。

また、下記出版物を介し、医学情報を当財団から世界に発信する。

平成29年（6月23日（金）～25日（日）ぐんま県庁1階ホール）に第7回日独交流事業記念大会にて、ぐんま日独協会鈴木克彬会長よりベルツ博士業績及び草津温泉療法についてのパネル発表の際に協力依頼を受けた。

4、例会、総会会報出版

インターナショナル・メディカルニュース（IMN）を隔月刊行する。本誌は例会並びに総会講演抄録の和英両文からなり、全会員および医学関連機関・国立国会図書館に配布され、当協会ホームページから随時、閲覧できダウンロードも可能である。わが国の医学医療の現状を紹介すると共に、国際医学交流に活用され平成28年末には480号に達する。

5、会員入会依頼

維持会員については物故、高齢化等に伴う会員の自然減少に対し、役員、会員協力して積極的に新会員を勧誘する。賛助会員についても当財団の主旨に賛同し、協力を得られる企業の入会を依頼する。

6、協賛・寄付依頼

例年通り賛助会員並びに各方面に寄付を依頼し、所期の目的継続のために資する。

7、経費削減

事業費、管理費その他、諸経費の節減につとめる。

8、その他

定款に基づく諸事業の継続と当財団の更なる発展に努める